



# The Bamboo Shoots

～地方季刊新聞～  
大和高田・リズモー都市友好協会 発行  
2025年 秋・冬号

No.187

連絡先：大和高田・リズモー都市友好協会  
TEL：0745-22-1101

<https://www.city.yamatotakada.nara.jp/lismore/>

このバンブーシューツ（筍）が、大和高田市とリズモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長するように。



## リズモー市派遣学生が来高

(2025年9月30日～10月10日)

今年度もリズモー市より学生5名と引率者1名の計6名が派遣されました。市内の学校への通学や、靴下工場の見学、広島での平和学習など、大和高田市や日本の生活と文化にたくさん触れました。週末はホストファミリーと過ごし、11日間の滞在期間を経て帰国されました。

## リズモー市の学生に聞きました！

Q.大和高田市の第一印象はいかがでしたか？

・大和高田の第一印象は、非常によく整備され、自然と建物、記念碑、お店が調和しているということでした。近代的なインフラと温かく平和な雰囲気うまく調和している街に感心しました。リズモーの雰囲気にとても似ていて、それほど違いはありませんでした。しかし、高速道路の標識に「大和高田」という名前が書かれて



大和高田市役所に到着した後、市長を表敬訪問しました。

いるのを見た時、とても興奮しました。それは単なる地名ではなく、私にとって、そして私の生徒たちがこれから発見していく場所として、特別な意味を持つ場所だったからです。そのため、それは見た目以上に特別な、大和高田との感情的なつながりの始まりを表していました。



- ・大和高田に到着したとき、とても静かで、強い落ち着きを感じました。この静かな場所の中で、その美しさを発見することができました。また、大和高田の人々はとても親切で歓迎的な人々であることもわかりました。初日に話す機会があったすべての人は、本当に親切でした。
- ・大和高田の第一印象は、とても清潔でした。静かで礼儀正しく、そして活気がありました。オーストラリアとの違いがとても気に入りました。到着した時、本当に日本に来たことに驚きました。
- ・とても美しい場所でした。リズムーとは違って通りはきれいで、出会った人は皆とても親切でした。

## Q.日本滞在中に、文化、マナー、習慣の違いで驚いたことはありますか？

- ・日本滞在中、多くの文化の違いに遭遇しましたが、特に忘れられない経験の一つは、様々な学校を訪問したことです。生徒たちは皆を温かく迎えてくれ、とても仲良く過ごしました。しかし、驚くべき違いの一つは、高田商業高校を訪問し、体育の授業に参加した時でした。ダンス、シンクロナイズドムーブメント、縄跳びでのチームワークは、規律、暗記力、そしてチームワークのレベルを示していました。こうして、チームワーク、正確さ、敬意、そして調和が日本文化においてどれほど深く重視されているかを実感し、新たな感謝と視点を得ることができました。
- ・個人的には、こんなに平和で静かな場所が存在するとは知りませんでした。私が住んでいるオーストラリアと比べると、大和高田の騒音は全く違いました。日本の文化に触れることができとても感謝しています。大和高田の人々は皆とても礼儀正しく、全くの見知らぬ人であっても、大和高田の人々はいつも親切に迎えてくれます。オーストラリアと日本のマナーの違いは確かにありますが、それを体験できたのは素晴らしいことでした。



- ・日本にはたくさんの違いがありましたが、アニメを見ていくつかは知っていました。みんなとても礼儀正しく親切でした。トイレは少し違いましたが、すぐに理解できました。食べ物の違いが気に入りました。食べたものはすべてとても美味しかったです。
- ・驚きはそれほど多くはありませんでしたが、一番の違いは、生徒たちが学校全体を自分たちで掃除していることだと思います。



図書館で紹介された人気アニメ本は、オーストラリアでも人気本でした。

## Q.ホストファミリーで印象に残ったことは何ですか？

- ・彼らの英語力の高さと、彼らならではの素晴らしい点に感銘を受けました。彼らから日本語を学び、英語を教えるのはとても楽しい時間でした。夜には一緒に読書をし、彼らは私に絵を見せ、私は彼らの英語の発音を手伝いました。しかし、私が一番楽しかったのは、ホストファミリーと様々な形で時間を過ごしたことです。子供たちと遊んだり、本を読んだり、ホストマザーと一緒に食事を準備したり、料理をしたりし、ホストファミリーと旅行の写真を見たりしました。一緒に過ごす時間は多くありませんでしたが、私の努力が友情、平和、文化交流のための将来の取り組みを築き、形作っているように感じました。



- ・正直に言うと、すべてです！こんなに素敵なホストファミリーと一緒に過ごすことができ、光栄でした。彼らは私にとっても興味を持ってくれ、私たちはほとんど毎晩遅くまで起きていて、ただお互いに話すだけで最高の時間を過ごしました。彼らは私にたくさんの新しいことに挑戦する機会を与えてくれて、そのおかげでたくさんの思い出を楽しみ、大切にすることができました。一緒に散歩したり、お寺を訪れたり、キャンドルナイトに行ったり、大きなショッピングモールに行ったり、一緒に過ごした時間を楽しんでいました。彼らは私を温かく迎えてくれ、すぐにくつろいだ気分させてくれました。本当に感謝しています
- ・彼らがとても優しく、話すのが本当に難しいのではないかと心配していましたが、それほど悪くありませんでした。携帯で翻訳が必要な場面が何度かありましたが、全体的には問題なく話せました。また、彼らがオーストラリアと私たちの文化についてよく知っていることにも驚きました。
- ・ホストファミリーは素晴らしかったです。とても思いやりがあり、一緒に夕食をとったり、その日の出来事について話したりするのが楽しかったです。本当に素晴らしい人たちで、私を受け入れてくれて、親切にしてくれたことにとても感謝しています。

## Q. 広島印象はいかがでしたか？

- ・現地に到着し、宮島を訪れたとき、広島はとても新しい街のように感じました。皆さんはとても親切でしたが、平和記念公園に向かう路面電車に乗っているときでさえ、この街の重厚さと真剣さが、まるで肩にのしかかっているかのように感じられました。世界に平和がどれほど必要



かを感じ、広島は姉妹都市関係が世界中の平和と調和にとって不可欠な基盤である理由を示す、生きた記念碑となりました。そこで共有された知識は、平和に向けて取り組むために、常に心に留めておくべきものです。

- ・広島を訪れることができ、とても光栄に思いました。広島にはたくさんの歴史があり、それについて学ぶ機会がありました。私たちが広島に滞在中、多くの方が広島について学んでいるのを見るのは素晴らしいことでした。この感動的な出来事の歴史について学ぶことがいかに大切かを示していると思います。
- ・広島を訪れてとても楽しかったです。大和高田では私たちだけが外国人のように感じていたのに、たくさんの外国人がいるのを見て驚きました。混雑していて少し圧倒されましたが、それでもとても楽しかったです。博物館見学は、とても悲しい経験でしたが、勉強になりました。
- ・とても美しく、歴史豊かな場所でした。何が起きたのか、そして亡くなった人々や生き残った人々の物語を知った後、とても感動しました。それでも、この旅で最も好きな経験の一つであり、間違いなく長い間心に残るでしょう。



ガイドさんから原爆ドームについてたくさん教えていただきました。



## Q.最も楽しかったことは何でしたか？

- ・最も楽しかったのは、生徒たちとこの旅を経験し、経験を共有し、文化や言語を教え、そして彼らから学ぶことでした。万博から文化活動、学校訪問まで、一緒に時間を過ごすことが最も楽しい経験でした。しかし、彼らを指導し、引率している間も、私は彼ら一人ひとりについて多くのことを学び、彼らがそれぞれの強みと洞察力で成長していくのを見てきました。それだけでなく、困難な状況に直面したときも、彼らは仲間意識、笑い、そして友情で互いに支え合うことができました。ですから、彼らの旅路を支援できたことを光栄に思い、この経験が、交換留学プログラムが私に与えてくれたように、彼らの将来の進路に良い影響を与えることを願っています。日本の文化、礼儀作法、慣習だけでなく、大和高田の真髄、そしてここから生まれるコミュニティへの誇りを体験させてくれて、本当にありがとう。
- ・この旅行では、たくさんのことを経験し、たくさんの人に出会うことができ、信じられないほど素晴らしい経験でした。ホストファミリーと充実した時間を過ごすことができたこと、そしてあらゆる年齢の学校を訪問できたことは素晴らしい経験でした！大和高田市の生徒たちと話すことができ、たくさんの友達ができたのも素晴らしい経験でした。全体を通して素晴らしい経験となり、体験したこと、見ることができたことすべてにとっても感謝しています。またすぐに戻ってくるのが楽しみです。

- ・私たちが行ったすべてのアクティビティーは素晴らしく、すべてに参加できてとても嬉しかったです。一番楽しかったのは、街を歩き回り、日本のさまざまなものを見ることができたことです。すべてのアクティビティーや訪問、特に高校の訪問が大好きでした。
- ・素晴らしい人たちと一緒にすべての場所を訪れ、単なる休暇では考えられないような方法で日本を見ることができました。地元の人のように受け入れてくれたホスト・ファミリーと一緒に過ごすことができたのは本当に素晴らしいことでした。

## ホスト・ファミリーに聞きました！

### Q.文化や習慣の違いで戸惑いましたか？

- ・くしゃみが出るたびに「Bless You」と言っていた。私たちがくしゃみをしてもしばしば言ってくれていた。
- ・オセロを知らなかった。
- ・歯磨きを夜しかしないようだった。
- ・お風呂の後は必ず耳掃除をしていた。
- ・日本が好きで来てくれていることもあり、日本の文化や習慣についても理解してくれている様子で、少し伝えるだけで、うなづいて聞いてくれることが多く、特に戸惑ったことはなかったです。
- ・室内温度の体感の差。十分快適に眠れる室温でしたが、21℃の冷房を一晚中つけて寝ていた。一緒に過ごしていたリビングでも我慢させていたのかも知れないと思った。





- ・朝シャワーを浴びる際など、シャワーの水をすごい勢いでずっとだしっぱなしだった。
- ・外国特有の、柔軟剤の香りが少し強かった。
- ・お風呂もシャワーのみで、せっかくだから、湯船につかってみればいいのにと考えた。
- ・寝る時間が全く違った。朝は起きる時間が早くて、寝る時間はとても遅く、体力が心配だった。日本は海外よりも家が小さく、犬がいない家が多かったので、寂しそうにしていた。
- ・日本文化にも理解のある方で、特に何か問題になることはなかったです。

## Q.一緒に過ごして楽しかったことは？

- ・ずっと楽しかった。常にニコニコしてくれ、返事も丁寧に目を見てしてくれてすごく良い子でした。
- ・ご飯を作る過程も興味があるらしく、色々聞いてくれた。
- ・抹茶味が気に入ったらしく、買い物と一緒にいったときたくさん買って食べていた。キットカットの種類が多いのに驚いていた。



- ・オーストラリアではマクドナルドでアルバイトをしているらしく、日本のマクドナルドにも興味を持っていたので連れて行ってあげたら喜んでいました。店の内装も制服も雰囲気もオーストラリアとは違う、と話していた。
- ・一緒に食事（お寿司、しゃぶしゃぶ、ラーメンなど）をして、食べ物のお話をした。オーストラリアでの学校生活の写真を見せてもらったこと。相撲館に行って、お相撲さんの着ぐるみを着て写真を撮ったこと。
- ・晩御飯を食べた後に文化や食生活の違いをたくさん話した。
- ・坊主めくりなどのゲームをして遊んだ。
- ・YouTubeでお互いの知っている曲のミュージックビデオを見て歌ったりした。
- ・のんびり公園を散歩した。
- ・浴衣を着て花火をした。
- ・スーパーで大根の大きさや形に驚いていたり、生きたカニが売られていることにも驚いていて、スーパーの違いを教えあったりしたのも楽しかった。
- ・息子の誕生日だったので、(ささやかな)誕生日会をして、プレゼントを用意してくれたこと。
- ・自分の高校と一緒にいけたり、その日に起きた出来事を毎日話してくれて嬉しかった。手持ち花火を一緒にしたり、オーストラリアの知らなかったことをもっと知ることができた。どこに行っても喜んでくれて、大阪や、奈良のことを、たくさん紹介できてよかった。自分の英語力も、自分自身が留学に行った時より伸びているなど実感できた。彼女がずっと食べたがっていたご飯を作ったり、大好きなアニメも兄と盛り上がっていて楽しそうだった。

- ・一緒に 100 円ショップや、スーパーで買い物をしたり、月見団子を作ったりして、楽しかった。
- ・子供たちに英語の絵本を読んでくれた。
- ・夕食時にいろいろなお話をするのも楽しかった。



奥村記念館で巨大地震の体験をしました。

## Q. 受け入れた学生についてどう感じましたか？

- ・私たちのたどたどしい英語でも一生懸命聞いてくれてありがたかった。
- ・素直で日本を楽しんでくれているようだった。
- ・毎朝おにぎりとお味噌汁を食べてくれていた。
- ・お箸の持ち方がすごく上手で感激した。
- ・話をしたり、写真を見せてもらう中で、着物を持っていてオーストラリアで着ていた。また一緒にラムネを飲んだ時に、オーストラリアでも飲んだことがあったりというように、本当に日本に興味があると感じました。
- ・真面目で素直、異文化交流のすべてに関しても積極的だった。
- ・スポーツが好きなど共通の趣味もたくさんあり、お互い打ち解けるのが早かったと思う。
- ・ぜひまた機会があれば会いたいと思うような学生だった。

- ・お城見学や、京都へ連れて行っただが、まったくといっていいほど興味を示さなかった。
- ・今回の交換留学を通じて、私たち家族は非常に良い経験となりました。息子は英検 2 級に向けて勉強を始め、母は英語をスマホのアプリで学び始めました。笑
- ・ありがとうございました！！
- ・私は 8 月に留学に行った家の子との、交換留学生でした。リズモ滞在時にコミュニケーションを大切にし、日本でしたいことなどを聞いていたので、2 ヶ月ぶりに会えた時は、とても嬉しかったです。みんな優しく、英語での会話がスムーズにできました。日本語があまり上手でないと皆言っていましたが、「ありがとうございます」や、「いただきます」などの挨拶は毎日しっかり喋っていて、頑張っている姿勢が伝わりました。皆、日本のことを来る前より大好きになって帰ってくれたので、私もとても嬉しかったです。
- ・本当に家族で貴重な経験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。またいつかお会いできればと思います。



大仏も大仏殿も壮大でした。

# バンブー・イングリッシュ



大和高田・リズモー都市友好協会では、市内の5歳児から小学6年生までの子ども達を対象に、4月から始まり翌年3月に終了するのですが、月に2回英語にふれ合う機会を設けています。いろいろな動物、野菜、果物、色や形、スポーツ、職業など身の回りの事からを英語で何と言うのかな？好奇心を持って、毎回楽しんでいきます。

リズモーからの交換学生達との交流も、英語で

挨拶をしたり、一緒に紙相撲やクリケットをして、貴重な体験ができました。

また、年間行事としてハロウィンやクリスマスの英語も学びました。

バンブー・イングリッシュに参加した子ども達が、英語に興味を持って高校生に成長し、交換学生としてリズモー市を訪問して、大和高田市とリズモー市の架け橋となってくれることを願います。



ポール・グリーン神父の  
逝去を悼んで

姉妹都市提携の礎を  
築いた『愛の架け橋』



≪訃報≫

2026年1月23日、オーストラリア・シドニーにおいて、ポール・グリーン神父が97歳でその尊い生涯を閉じられました。71年間にわたる司祭生活の中で、神父は大和高田市とリズモー市との姉妹都市提携を実現し、両国の和解と友好に生涯を捧げられました。ここに深い敬意と感謝の意を表し、謹んで哀悼の意を捧げます。

◎日豪姉妹都市提携第1号のきっかけ

1955年に来日したグリーン神父は、翌1956年に高田カトリック教会へ赴任されました。当時、本市には幼稚園が不足していることを知った神父は、日豪両国で募金活動を展開し、1957年に「高田カトリック幼稚園」を完成させました。

その後、神父はオーストラリアに多くの姉妹都市があるにもかかわらず、日本の都市との提携が一つもないことに気づきます。そこで自身の出身地リズモー市と大和高田市の提携を思い立ち、当時の名倉仙蔵市長へ英語で手紙を送りました。英語に堪能だった名倉市長は神父の提案に即座に応じ、議論は急速に進展しました。

そして1963年8月7日、歴史的な姉妹都市提携調印式が執り行われました。この日は広島への原爆投下の翌日であり、「悲しい日の翌日に平和を誓う」という神父の強い願いが込められていました。こうして日豪間で第1号となる姉妹都市提携が誕生したのです。

◎功績と近年の活動

グリーン神父の活動の根底には、戦争の憎しみを「愛」へと昇華させる強い信念がありました。神父は20年以上にわたり日本に住み、日本の言語や文化を深く学ばれました。こうした功績により、日本政府から旭日小綬章、オーストラリア政

府からオーストラリア勲章(OAM)を授与されたほか、2010年にはサザンクロス大学から名誉博士号を贈られました。

晩年も両市の交流を見守り続け、2011年の東日本大震災では日豪両国で募金活動を行い、多大な寄付をされました。2013年の姉妹都市50周年記念フォーラムでは、「歴史の短いオーストラリアと古い文化を持つ日本が、互いに尊敬し、本当の愛をもってより良い世界を作ろう」と力強く語られました。

神父が導いた盟約書には、「この友情は両市間のみにとどまらず、全世界の平和に貢献する」という高い理想が掲げられました。その言葉どおり、現在では日豪間の姉妹都市は100を超えるまでに成長しました。

◎永遠の別れ、そして未来へ

神父が蒔いた友好の種は大きな木へと成長し、1985年から続く「交換学生制度」を通じて次世代の若者たちが絆を深めています。

グリーン神父が本市に遺してくださった「愛の架け橋」は、私たち市民の手で次の世代へと引き継いでいくべきかけがえのない宝物です。大和高田市は、ポール・グリーン神父の偉大な功績に心から敬意を表し、神父が築いてくださった友好の絆をこれからも大切に守り続けることをお約束いたします。



2013年のグリーン神父  
リズモー市での姉妹都市提携50周年記念式典にて

ポール・グリーン神父のご冥福を心よりお祈り  
申し上げます。

Rest in peace, Father Paul Glynn. We hold a deep and everlasting gratitude for your lifelong mission of fostering love and reconciliation between our two nations.